

**製品名: SPAK (リン酸化 Ser311) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05459**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	60kDa

**抗原情報**

遺伝子名	STK39
別名	STK39; SPAK; STE20/SPS1-related proline-alanine-rich protein kinase; Ste-20-related kinase; DCHT; Serine/threonine-protein kinase 39
遺伝子 ID	27347.0
SwissProt ID	Q9UEW8
免疫原	抗血清は、ヒト STK39 の Ser311 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 277-326

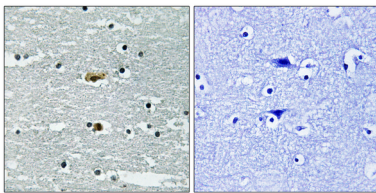
**背景**

この遺伝子は、細胞ストレス応答経路において機能すると考えられるセリン/スレオニンキナーゼをコードしています。このキナーゼは低張ストレスに応答して活性化され、複数の陽イオン-塩素共役型共輸送体のリン酸化を引き起こします。触媒活性を有するこのキナーゼは p38 MAP キナーゼ経路を特異的に活性化し、細胞ストレス下では p38 との相互作用が減少することから、このキナーゼは細胞ストレス応答における中間体として機能する可能性が示唆されます。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,ドメイン: PAPA ボックス (プロリン-アラニン反復配列) は、アクチンやアクチン様タンパク質などの細胞内タンパク質との相互作用を促進することで、キナーゼを特定の細胞内部位に誘導する可能性があります。 ,機能: ストレス活性化シグナルのメディエーターとして機能する可能性があります。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 STE20 サブファミリー。 ,類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。 ,細胞内局在: カスパーゼ切断により核に局在します。 ,組織特異性: 主に脳と膵臓に発現し、次いで心臓、肺、腎臓、骨格筋、肝臓、胎盤、精巣に発現します。 ,

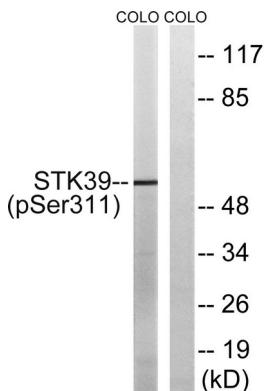
## 研究分野

-

## 画像データ



STK39 (リン酸化 Ser311) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



COLO205 細胞ライセートの STK39 (リン酸化 Ser311) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。